

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ  
川崎市外国人市民代表者会議  
(第10期 第1年 第2回 第2日)  
ぎじろく  
議事録

1 日時 2014(平成26)年9月7日(日) 午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 20人

張 氷青、葉 元聡、任 冢林、劉 健全、王 夕心、金 スンオグ、崔 想、  
河 相宇、牟 鳳菊、グエン ゴク バオ リン、仲田 シリワン、ヒラチヤン  
アスカ、ケゼングア エドワード、セヌー ジョアキム、バルトコバ オクサナ、  
園田 泉 ベアトリス、河本 ファビオ 良則、シフケン ブランドン、  
オルソン チャールズ、デイトマー ダニエラ

(3) 事務局

石川 室長、町田 担当課長、長澤 担当課長、須藤 課長補佐、小田切 担当  
係長、小沢 担当係長、北爪 職員、榎本 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 5人

5 会議次第(公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

セヌー委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議2014年度第2回  
第2日を開催する。今日は、鈴木イエレナ委員、ヘイ・ジャ・フィ委員、

ヴィラマー・ジェリー委員、孔委員、タカハシ・ライゼール委員から欠席の連絡が届いている。今日の日程と配付資料の確認を事務局からお願いする。」

(事務局須藤課長補佐が今日の日程と配布資料について確認。)

(事務局北爪職員が応援職員とインターンの紹介。)

セヌー委員長「続いて、前回会議のまとめについて事務局からお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。)

セヌー委員長「それでは、議事に入る。まずは代表者の補充について事務局からお願いする。」

(事務局北爪職員が資料2に基づき説明。)

セヌー委員長「事務局の説明について、意見や質問はあるか。」

王委員「今期はまだ始まったばかりだ。なるべく多くの人の意見をとりいれた方がよいと思うので、個人的には補充を希望する。」

ディットマー委員「質問だが、候補者はもうすでに何人かいるのか。」

事務局北爪職員「後任の候補者については、みなさんが選ばれたときと同じタイミングで、リストがつくられている。」

セヌー委員長「ほかに意見、質問はあるか。(なし)では、代表者の補充について賛成の人は手を挙げてください。(全員賛成)それでは、代表者の補充を希望することに決まった。事務局は手続きをお願いする。次に、オープン会議について事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料3に基づき説明。)

セヌー委員長「事務局の説明について、意見や質問はあるか。(なし)では、審議を続ける。前回決めたポスターあるいはスクリーンを使った説明について事務局から補足の説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料3-2に基づき説明。)

仲田委員「ポスターについてだが、たとえばお客さんが来たときに話していることは録音するのか。録音しないとみんなで共有することはできないだろう。」

事務局北爪職員「マイクや録音はない。近くにいる人しか内容を共有できない。」

王委員「先ほど説明で、ポスターが完成するまでに1カ月くらい必要という話だったが、逆算すると10月16日にまでにはポスターを完成させないといけないことになるので難しいのではないかと思うのだが。」

オルソン副委員長「我々も事前に話を聞いて難しいだろうという結論になった。少

なくとも4つや5つ作成することは無理だろう。1つくらいならできるかもしれない。川崎市に住んでいる外国人の概要のようなものにすれば、誰かが横で説明する必要もないだろう。」

セヌー委員長「ポスターを作成するならば勉強会が必要になると思うが、みなさんの都合はどうか。（順番に都合を確認）では、ポスターか、スクリーンか、ポスターとスクリーンの併用かについて決めたい。希望するものに手を挙げてください。（ポスター：0人 スクリーン：8人 ポスターとスクリーン：12人）それでは、ポスターとスクリーンの併用に決まった。次にプログラムとテーマについて審議する。事務局から説明をお願いする。」

（事務局高橋専門調査員が資料3に基づき説明。）

セヌー委員長「事務局の説明について、質問や意見はあるか。」

劉委員「2006年度のテーマについてももう少し追加で説明をお願いしたい。」

事務局高橋専門調査員「2006年度のオープン会議は、10周年ということでこのときのパネルディスカッションのパネリストは1期から5期の歴代の委員長だった。内容としては、最初に会議ができたときから10年間の活動について、提言もそうだが提言以外のことも含めて振り返ったり、代表者会議の意義について意見を述べ合ったりということだった。」

セヌー委員長「ほかの意見や質問はあるか。」

オルソン副委員長「私の考えでは、長い歴史があるこの会議について参加者に説明するためにも、我々が勉強するためにも過去の代表者に来てもらい話をしてもらうことは1つの機会としてよいのではないかと思う。」

金委員「代表者会議のこれまでの取り組みを振り返るとするのは賛成だ。そのときに、川崎市が日本全体の中でも外国人のための施策をとてがんばってきたということ、とくに外国人市民代表者会議というのがすごく先進的なものなのだということがメインに据えたらよいと思う。最近は残念だが排外主義的な機運も出てきたりしているの、そのあたりのことも少し意識しながら川崎市の取り組みを紹介できたりするとよいのではないか。」

園田部会長「せっかく、代表者会議を立ち上げた人たちを呼ぶ予定となっているので、やはりこの会議の意義みたいなことについて聞けたらよいと思う。とくに、外国人でもこの代表者会議を知っているという人はすごく少ないと思うので。」

(事務局高橋専門調査員が資料3に基づきパネルディスカッションのパネリストについて説明。)

セヌー委員長「今までの意見をまとめると、過去と現在と未来のことについてなのかと思う。このような内容のテーマでよいだろうか。賛成の人は手を挙げてください。(全員賛成)では、事務局は調整をお願いします。」

崔委員「パネリストの学識経験者の候補について、もう少し説明をしてほしい。」

(事務局高橋専門調査員が説明。)

河委員「1つのアイデアだが、学識経験者や過去の代表者経験者はもちろんよいと思うのだが、たとえば行政側の立場とか川崎市の議員から意見を聞くのも面白いのではないかと思う。」

オルソン副委員長「私も賛成だ。もう1つは、我々が視察をしたときにふれあい館に行ったが、そこで聞いた話のようにこの会議ができる前のことも含めて長い歴史について知っている人でも面白いのではないか。」

張委員「これまでの活動や提言はすべてが成果というわけではない。うまくいかなかったことも話の中には入れてほしい。」

任委員「張さんの意見とも関連するが、これまでに困ったことや足りなかったことなど、もっとこうすればうまくいくのではないかといった改善点についても意見を聞きたい。」

セヌー委員長「パネリストについて新しい意見が出たが、事務局は調整が可能なか。」

事務局町田課長「事務局で可能かどうか検討と確認をしたいので、お任せいただきたい。ただ、時間もあまり残されていないので難しい面もあるかと思う。」

セヌー委員長「では、パネリストとコーディネーターの調整は事務局にお願いするということで賛成の人は手を挙げてください。(全員賛成)それでは、時間を過ぎているが、部会審議に移る。」

### 【福祉教育部会】

園田部会長「最初に、前回会議の内容について、事務局からお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。)

園田部会長「何か質問などはあるか。(なし)では、今後の審議計画について資料4-1を見てほしい。第9期の経験もふまえての提案なのだが、最終的に

提言をまとめることを考えると、ある程度スケジュールを組んで計画的に進めていく必要がある。もちろん、1回の会議で終わらなかつたりすることもできると思うが、大体このようなスケジュールで進めたいと考えている。何か質問や意見はあるか。」

ケゼンダ委員「2月に参考人の招致とあるが、このときは審議はなしか。」

事務局高橋専門調査員「第9期のときもそうだったが、参考人招致の日に審議をすることもできる。」

園田部会長「ほかに何かあるか。(なし)それでは、今日の審議テーマについて、まずは子育てガイドブックに関して事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料4-2に基づき説明。)

園田部会長「やはり川崎区が、一番外国人が多いので多言語版ができたのではないと思う。翻訳はとても大変な作業だと思うのだが、私たちの会議としては何ができるだろうか。区によってももちろん細かい部分は違うが、ある程度似ている部分もあるようだが。」

ケゼンダ委員「私も内容はある程度似ているところはあると感じる。同じ川崎市なので、共通の部分は統一してもよいのではないかと思う。」

園田部会長「共通ではない部分もあるので、難しいかもしれないが。」

ヒラチャン委員「たしかに公園の情報など区によって異なる部分は多い。ただ、共通の部分もあるので、そこは統一した方がコスト的にもよいかもしれない。」

金委員「『さんぽみち』などは実際に編集をしているのは、ボランティアの地域のお母さんたちだ。子育てサークルなども変わってしまうことも多いので、地域に密着した情報をとということになっている。市全体ということになると、電話帳のように分厚くなってしまう。私としては、なぜ『さんぽみち』の多言語版をつくることができたのか、ということをもう少し予算や翻訳のことも含めて知りたい。それとどのように配布しているのかということも知りたい。」

崔委員「中原区はるび付きの日本語で、麻生区は英語でといったようにバラバラだが、やはりこの点は統一してほしい。せめて英語を入れるだけでも違うだろう。」

園田部会長「事務局に聞きたいが、『さんぽみち』について先ほどの金さんからの質問を調べてもらうことはできるか。」

事務局高橋専門調査員「おそらく、できると思う。子育てガイドブックは、各区の予算でつくっている。配布状況だが、川崎区役所ではとても親切に説明や

対応<sup>たいおう</sup>をしてくれた。川崎区<sup>かわさきく</sup>以外<sup>いがい</sup>では多言語版<sup>たげんごばん</sup>がないということに<sup>かん</sup>関しては、やはり川崎区<sup>かわさきく</sup>では昔<sup>むかし</sup>から外国人<sup>がいこくじん</sup>の方が<sup>かた</sup>多くいるということが<sup>おお</sup>あるだろう。各区<sup>かくく</sup>によって、ルビ<sup>るび</sup>付き<sup>つき</sup>だったり英語<sup>えいご</sup>だったりバラバラ<sup>ばらばら</sup>なのは、各区<sup>かくく</sup>が独自<sup>どくじ</sup>に考<sup>かんが</sup>えているがどうしたらよいか<sup>おお</sup>わからないという部分<sup>ぶぶん</sup>が大きい<sup>おお</sup>のだと思う。」

園田部会長<sup>そのだぶかいちよう</sup>「では、『さんぽみち』についてもう少し<sup>すこ</sup>調べて<sup>しら</sup>もらうことに<sup>つぎ</sup>して、次<sup>つぎ</sup>は母子手帳<sup>ぼしてちよう</sup>に進<sup>すす</sup>もう。事務局<sup>じむきょく</sup>から説明<sup>せつめい</sup>をお願い<sup>ねが</sup>する。」

(事務局高橋専門調査員<sup>じむきょくたかはしせんもんちようさいん</sup>が資料4-2<sup>しりよう</sup>に基づき<sup>もと</sup>説明<sup>せつめい</sup>。)

劉委員<sup>りゅういん</sup>「外国語版<sup>がいこくごばん</sup>をもらえるようになったのは最近<sup>さいきん</sup>か。」

事務局高橋専門調査員<sup>じむきょくたかはしせんもんちようさいん</sup>「最初<sup>さいしよ</sup>にできたのが1995<sup>ねん</sup>年だ。」

劉委員<sup>りゅういん</sup>「理由<sup>りゆう</sup>はわからないが、私<sup>わたし</sup>の場合は中国語版<sup>ちゆうごくごばん</sup>がもらえなかった。多言語版<sup>たげんごばん</sup>がある<sup>おお</sup>ということを知<sup>し</sup>らなかつた。」

河本委員<sup>かわもといん</sup>「多分<sup>たぶん</sup>、外国人<sup>がいこくじん</sup>だとわかつたら、その人<sup>ひと</sup>がわかる言語<sup>げんご</sup>を出<sup>だ</sup>してくれると<sup>おも</sup>う。

僕は『何<sup>なん</sup>の言語<sup>げんご</sup>がいいですか』と聞<sup>き</sup>かれた。」

仲田委員<sup>なかだいん</sup>「希望<sup>きぼう</sup>すればもらえるはずだ。今<sup>いま</sup>、私<sup>わたし</sup>は多摩区<sup>たまぐ</sup>の外国人子育<sup>がいこくじんこそだ</sup>て広場<sup>ひろば</sup>のスタッフ<sup>すたっふ</sup>だが、子ども<sup>こども</sup>が日本<sup>にほん</sup>で生ま<sup>う</sup>れていない場合<sup>ばあい</sup>が問題<sup>もんだい</sup>になっている。とくに両親<sup>りやうしん</sup>が外国人<sup>がいこくじん</sup>の場合は、制度<sup>せいど</sup>のことなど知<sup>し</sup>らないことが<sup>おお</sup>多い。」

金委員<sup>きまいん</sup>「日本<sup>にほん</sup>で妊娠<sup>にんしん</sup>・出産<sup>しゅつさん</sup>していないお子<sup>こ</sup>さんの場合<sup>ばあい</sup>、最初<sup>さいしよ</sup>に受診<sup>じゆしん</sup>した病院<sup>びやういん</sup>で『母子手帳<sup>ぼしてちよう</sup>は』と聞<sup>き</sup>かれるのではないか。」

牟委員<sup>むいん</sup>「娘<sup>むすめ</sup>が小学<sup>しょうがっこう</sup>6年生<sup>ねんせい</sup>のとき<sup>かえ</sup>に帰<sup>き</sup>って来た<sup>き</sup>のだが、そのときも<sup>おも</sup>もらえた。」

園田部会長<sup>そのだぶかいちよう</sup>「今日<sup>きょう</sup>は時間<sup>じかん</sup>が足り<sup>たり</sup>ないので、次<sup>つぎ</sup>に進<sup>すす</sup>めたい。子育<sup>こそだ</sup>て広場<sup>ひろば</sup>について、事務局<sup>じむきょく</sup>から説明<sup>せつめい</sup>をお願い<sup>ねが</sup>する。」

(事務局高橋専門調査員<sup>じむきょくたかはしせんもんちようさいん</sup>が資料4-2<sup>しりよう</sup>に基づき<sup>もと</sup>説明<sup>せつめい</sup>。)

園田部会長<sup>そのだぶかいちよう</sup>「子育<sup>こそだ</sup>て関連<sup>かんれん</sup>の情報<sup>じようほう</sup>はたくさんあつて、たぶん口<sup>くち</sup>コ<sup>こ</sup>ミ<sup>み</sup>で広<sup>ひろ</sup>がって行くこと<sup>おも</sup>が一番<sup>いちばん</sup>多い<sup>おお</sup>と思う。多摩区<sup>たまぐ</sup>には外国人<sup>がいこくじん</sup>の子育<sup>こそだ</sup>て広場<sup>ひろば</sup>がある<sup>おお</sup>そうなので、とてもよい<sup>おも</sup>と思う。シリワン<sup>しりわん</sup>さんからは何<sup>なに</sup>かあるか。」

仲田委員<sup>なかだいん</sup>「今<sup>いま</sup>は子育<sup>こそだ</sup>て広場<sup>ひろば</sup>はただ遊<sup>あそ</sup>ぶだけではなく、スタッフ<sup>すたっふ</sup>たちがいろいろとテ<sup>て</sup>ー<sup>ま</sup>マ<sup>ま</sup>を決<sup>き</sup>めて情報<sup>じようほう</sup>交換<sup>こうかん</sup>の場<sup>ば</sup>になっている。たとえば、幼稚園<sup>ようちえん</sup>の入り方<sup>はい</sup>や準備<sup>じゆんび</sup>についてなど。たまに麻生区<sup>あきおく</sup>や高津区<sup>たかつく</sup>からも情報<sup>じようほう</sup>がほしくて来<sup>き</sup>る人<sup>ひと</sup>がいる。全部<sup>ぜんぶ</sup>の区<sup>く</sup>で外国人<sup>がいこくじん</sup>子育<sup>こそだ</sup>て広場<sup>ひろば</sup>があればよい<sup>おも</sup>と思う。」

事務局高橋専門調査員<sup>じむきょくたかはしせんもんちようさいん</sup>「質問<sup>しつもん</sup>だが、その外国人<sup>がいこくじん</sup>子育<sup>こそだ</sup>て広場<sup>ひろば</sup>を運<sup>うん</sup>営<sup>えい</sup>したり、活<sup>かつ</sup>動<sup>どう</sup>したりしている人<sup>ひと</sup>たち<sup>おも</sup>というの<sup>おも</sup>はどのような人<sup>ひと</sup>か。」

仲田委員「私のグループは4人のスタッフで、日本人が3人と私だ。3人は13年間ずっと子育て広場をやっている。」

園田部会長「やはり問題としては、情報が足りないということではないか。私の意見だが、交流センターのような外国人のための窓口が必要だと思う。」

バルトコバ委員「私も赤ちゃんが生まれたばかりだが、全然情報が足りない。たとえば、私は両親学級にも通っているが、私の友達の中で両親学級に通っているのは1人しかいない。ほかの人は両親学級や講座などがあること自体知らない。日本語を読めて、質問することができた人だけしかわからない。役所の人には外国人にもう少し積極的に情報をアピールしてもらいたい。」

園田部会長「第9期でも情報伝達ということを提言にしたが、やはり情報の問題が大きいかということであれば、それを提言にしていく必要があるだろう。これからも出てくる課題だと思うので、頭の片隅に置いておいてほしい。残り時間が5分しかない。保育園については次回に回すか。」

劉委員「おそらく、みなさん事前に資料を読んでいると思う。私から少し意見を言いたい。資料4-3の入所基準のランクで求職活動がHという低いランクになっている。Hでは保育園に入れない。求職活動には内定者も含まれているので、内定をもらったにもかかわらず働けないということになる。もっと優先順位を上げる必要があるのではないか。」

園田部会長「時間が迫っているので、詳しくは次回の会議に回したい。次回のテーマとしては、学校関係で国際理解教育やいじめ問題ということになっているが、どのような資料がほしいか。」

仲田委員「国際理解教育について、私の友達が横浜で先生をしているので、横浜のプログラムについて知りたい。」

ケゼンガア委員「川崎の学校で具体的に実施していることを知りたい。」

崔委員「第9期のときも用意してもらったが、新しい人もいるので、まずは外国人の子どもの人数、学校の数など基本的な情報を把握した方がよいと思う。」

劉委員「あるかどうかわからないが、いじめ関係の統計データがほしい。」

事務局高橋専門調査員「1つ確認したいのだが、みなさんが関心をもっているのはいじめ全般のことか。それとも外国人だからとか、外国にルーツをもつからということか。」

劉委員「全般だ。」

事務局高橋専門調査員「とくに外国人ということにこだわらないという理解でよい  
か。」

劉委員「こだわらなくてもよい。」

園田部会長「ほかに何かあるか。(なし) それではこれで福祉教育部会を終わりに  
にする。」

## 【B部会】

任部会長「それでは、B部会をスタートしたい。まずは前回会議のまとめを事務局か  
らお願いする。」

(事務局北爪職員が資料1に基づき説明。)

任部会長「何か不明な点はあるか。(なし) では、前回決められなかった部会の  
名前を決めたい。これまでは何年間か社会生活部会という名前だった。前回は  
『別の名前にしてもよいのでは』という意見もあったが、とくにこの名前では  
活動をするうえで支障があるといったことでなければ変えなくてもよいのでは  
ないかと思う。何か意見はあるか。」

ディットマー委員「今回、テーマのなかに『経済』という言葉が入っているので、  
『経済』や『就労』といったキーワードを入れてもよいかもしれない。」

グエン委員「行政面的な側面も大きいと思う。」

シフケン委員「向こうの部会とこちらの部会の一番の違いは、向こうは福祉や教育、  
家族など少し個人的なテーマが多く、こちらは社会やビジネス、経済など少し  
大きな話が多い。」

任部会長「たとえば、経済生活などか。」

ディットマー委員「社会経済は。」

シフケン委員「経済だけでもよい。」

任部会長「もう一度、資料5-1を見てほしい。経済活動などの名前にしてしまうと  
たとえば住居だったり、相談窓口だったりといった社会や生活に関わるテーマ  
が外れてしまう気もするのだが。」

王委員「名前にそれほど時間をかけるのは効率的ではないと思う。早く決めて次に進  
んだ方がよいのでは。」

オルソン副委員長「時間も限られているので、3つぐらいの案を出してそこから選ん  
だらどうか。」

任部会長「社会生活と社会経済の2つではどうか。」

シフケン委員「経済社会の方がよいのでは。」

グエン委員「雇用と行政手続きはどうか。」

任部会長「できれば多くのテーマが含まれる広い意味の方がよい。」

事務局北爪職員「これまでもそうだが、前回事務局で部会分け案を作成したときも、A部会は教育や福祉といった具体的なテーマで、B部会はそれ以外の幅広いテーマを扱うということを考えている。あまり狭すぎると含まれないテーマが出てきてしまうのでは。」

任部会長「では、ここで決をとりたい。（経済社会：3人 雇用行政手続：0人 社会生活：7人）では、部会の名前は社会生活に決まった。次に今後の審議計画について事務局から説明をお願いします。」

（事務局北爪職員が資料5-1に基づき説明。）

任部会長「何かあるか。」

セヌー委員長「前回あったダニエラさんの姉妹都市やブランドンさんの意見が入っていないようだが、それでよいのか確認してほしい。」

ディットマー委員「たしかに、最初に姉妹都市というアイデアを出したが、労働とか就労、住居環境などのテーマの方が重要だと感じたので姉妹都市は優先順位は低いと思う。私は短期滞在者への支援というのがテーマに含まれているのでそれでよい。」

シフケン委員「私も大丈夫だ。」

オルソン副委員長「私は短期滞在者の支援に、人身売買や過剰な労働が含まれていると考えているのだが、そのような理解でよいか。」

任部会長「ほかに漏れているテーマはあるか。」

葉委員「私は前回、話したいテーマとして日本語の教育をあげたのだが、それは日本ですでに就労している人や日本語ができなくて就職に困っている人の支援という意味も含まれているのだが。審議計画の中には見当たらないのだが。」

事務局北爪職員「今回の資料の中にそのようなプログラムのこともくわえてある。」

任部会長「ほかにあるか。（なし）では、今日のテーマの就職支援に入りたい。

事務局から説明をお願いします。」

（事務局北爪職員が資料5-2、5-3に基づき説明。）

任部会長「事務局の北爪さんがたくさんの情報を集めてくれた。たぶん、私たちのリクエストに十分応えていると思うのだが。何かあるか。」

オルソン副委員長「在留資格の資料を見ると約8割の人が就労できるようだ。質問だが、日系人就労準備研修は日系人でなくてもよいのか。」

事務局北爪職員「もともとの趣旨はラテンアメリカの国籍をもっている日系人の支援だが、実際にはほかの国籍であっても申し込むことができる。」

オルソン副委員長「国籍はどこでもよいが、日系人でなくてはならないのか。」

事務局北爪職員「誰でも申請ができる。」

任部会長「葉さんが先ほど言っていた日本語の教育という部分では何かあるか。」

葉委員「ハローワークの活動が実際にどのようなものなのかチャンスがあれば行ってみたい。」

任部会長「葉さんの考えは、在留資格との関係だとどのような人の支援をイメージしているのか。」

葉委員「もともともっているスキルや知識を生かすためには、やはり日本語能力が重要だと思う。たとえば、ITの仕事で働いている人は多いと思うが、ITの知識はあっても日本語能力が必ずしも高いとはいえない。そのような人が日本語のレベルアップをしたら、さらにより就職先に転職できるかもしれない。それと、漢字がわかる人は日本語を覚えるのが早いかもしれないが。」

シフケン委員「日本に来て4年目ぐらいで日本語能力試験の2級を受けに行ったが、私が唯一の白人だった。周りは韓国人や中国人ばかりだった。たしかに漢字圏の人の方が慣れたり、覚えたりするのも早いかもしれない。」

グエン委員「やはり漢字圏の国と漢字圏以外の国に分けたら漢字圏以外だと時間はかかるだろう。ただ、それは当たり前だろう。」

任部会長「漢字圏とそれ以外の人ではサポートの仕方も変わってくるだろう。それと、ある程度日本語ができる人がさらに日本語を勉強したいということは分けて考えた方がよいだろう。」

王委員「少し話が戻るが、日本語のプログラム自体は素晴らしいがそれが知られていないということが根本的な問題ではないだろうか。」

任部会長「情報伝達の問題ということか。おそらく、みなさんはこのような制度はないと思っていたのではないか。だが、実際には支援や制度はたくさんあった。なかなか自分では見つけられないのだが。」

時間が迫っているので、まとめたい。今、議論になっているのは誰のための日本語教育かということ。在留資格だったり、漢字圏とそれ以外だったり。参考人招致をしてさらに詳しい話を聞いてもよいかも。このようなまとめでよいか。（異議なし）次回も引き続き経済のテーマということになっているが、事務局への資料のリクエストはあるか。」

セヌー委員長「川崎市内で、外国人が起業するときにはどのような支援制度があるか知りたい。」

王委員「もし制度があれば、どのくらいの人が利用しているのかも知りたい。」

オルソン副委員長「年金制度が変わるそうなので、そのことについて説明してほしい。

それと、関係があるかどうか分からないが、最高裁判所で生活保護の判決が出たがそのことについても知りたい。」

張委員「日系人就業準備研修について、どのくらいの利用者がいるのか知りたい。」

任部会長「河さんとリンさんは何かあるか。」

グエン委員「とくにないが、今は年金制度も外国人と日本人で基本的に変わらないのではないか。」

オルソン副委員長「外国人の場合は20年払っても、15年払っても国へ帰ると3年分くらいしかもらえない。」

事務局北爪職員「脱退一時金という制度については、次回説明するようにしたい。」

河委員「せっかくいろいろ調べてくれているので、情報として流すだけではなく、少し深く議論をして代表者会議として何かにつなげられればと思う。」

任部会長「では、これで社会生活部会を終わりにする。」

## 【全体会】

セヌー委員長「全体会を再開する。まずは部会報告だ。福祉教育部会からお願いする。」

園田部会長「最初に今後の計画について話し合った。次に、今日のテーマの乳幼児や小さな子どもの子育てについて審議した。まず、子育てガイドブックについては、すべての区で作成されているが統一されていない。川崎区ではいろいろな言語で作成されているが、ほかの区では英語だったり、ルビつきだったり、日本語だけだったりする。次に母子手帳について話した。母子手帳も多言語の

ものがあるが、1つ問題となったのはたとえば海外で出産して子どもが3歳や4歳で日本に来た場合はどうなるのかということだった。今回の会議で継続して話すことになった。子育て広場については、多摩区に外国人のための子育て広場があるということがわかった。子育て広場は区ごとにたくさんあるが、情報は口コミで広がる部分が多いのではないかとということになった。保育園については、時間が足りなかったので次回に回すことになった。次回はさらに学校のテーマに移って、国際交流といじめ問題について審議する予定だ。」

セヌー委員長「福祉教育部会から補足はあるか。（なし）B部会から質問や意見はあるか。（なし）では、続いてB部会の報告をお願いします。」

任部会長「まず、前回の課題で残っていた部会の名前が決まった。社会生活部会になった。今日は就職支援について審議した。働くことができる在留資格や日本語教育が受けられる制度について事務局から情報を提供してもらった。私たちの印象では支援制度がたくさんあるのでびっくりしたが、一方でそのような情報を知らなかったのも、やはり情報伝達がネックなのではないかという話になった。次回は、事務局に対して孔さんから介護分野の就職支援について、セヌーさんから起業サポートの制度について資料のリクエストがあった。あとは、年金制度についても次回話し合う予定だ。」

セヌー委員長「社会生活部会から補足はあるか。（なし）福祉教育部会から質問や意見はあるか。（なし）では、実行委員会報告に移る。ニューズレターからお願いします。」

葉委員「今日は12月下旬か1月に発行する予定の第52号の内容について話をした。記事の担当者を決めたのと、ドイツのクリスマスの過ごし方についてダニエラさんが、防災について金さんが記事を書くことになった。」

セヌー委員長「質問や意見はあるか。（なし）次に、市民祭り実行委員会からお願いします。」

仲田委員「市民祭りについてだが、企画としては、今年は子ども向けにスタンプラリーをやる。あとは、じゃんけん大会と魚釣りゲームだ。それと、各国の家の飾りなどを展示したいと思うので、協力できる人はもってきてほしい。」

セヌー委員長「質問や意見はあるか。（なし）では、事務局から補足説明をお願いします。」

事務局北爪職員「6月の会議のときにステージとパレードの両方に参加するということを決めたが、市民祭りの実行委員会から連絡があり、市民祭りに参加する団体が増えてきたので今年からステージかパレードのどちらかにしてほしいということになった。どちらにするか決めていただきたい。」

セヌー委員長「今の事務局の説明に対して、質問や意見はあるか。（なし）実行委員会ではどのような考えになったのか。」

張委員「ステージで1時間のパフォーマンスは難しそうなので、パレードがよいのではないかということになった。」

セヌー委員長「それでは、やはりステージは難しそうなので、パレードのみの参加で賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）次は、オープン会議実行委員会だ。先ほどの全体会で決めなければいけないことがあった。10分ほど会議を延長したいがよいか。賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）プログラムの順番を決めなければいけない。実行委員会では、先にポスターとスクリーンを使った説明をして、後半にパネルディスカッションをするということになった。質問はあるか。（なし）では、賛成の人は手を挙げてください。（賛成多数）実行委員会報告は以上だ。次に、私と副委員長が参加してきた防災訓練の報告をしたい。」

（セヌー委員長とオルソン副委員長が報告。）

セヌー委員長「それでは、事務局から事務連絡をお願いします。」

事務局北爪職員「識字日本語学級訪問アンケートを配った。代表者会議、とくにオープン会議のPRにもなるし、外国人の方たちと直接会って話ができる機会にもなるので、参加できる予定を事務局まで教えてほしい。」

セヌー委員長「次回は10月19日日曜日、午後2時から、ここ国際交流センターで開催する。これで、2014年度第2回第2日の会議を終わりにする。」